

「遊びを通じた学びのプロセス」を共通理解しよう(幼小連携)

・互いに伝え合い、学びをつないでいく年間交流計画



小学校・園におけるそれぞれのねらいを明確にした交流を計画し、
幼小の連携を図る
～小学校事例～

○園から小学校に提案された年間交流計画

時期	活動内容	園のねらい
5月	校庭でかけっこ	校庭の広さを感じながら、思い切り走る心地よさを味わう。
7月	プール参観	学校の授業の様子を見て雰囲気を知る。
9月	敬老会参加 (体育館を借用して練習する)	敬老会で使用する舞台の広さや高さに慣れ、安心して当日を迎えられるようにする。 地域の高齢者に自信をもって発表する。
10月	学芸会練習参観	小学生の演技を見ることで感動したり、自分もやってみたいと憧れや期待をもったりする。
11月	小学生との触れ合い	小学生と実際に触れ合うことで身近に感じ、親しみの気持ちをもつ。
1月	校庭で凧揚げ	広い校庭を走り回り、凧揚げを存分に楽しむ。 校庭の広さや小学校の雰囲気を感じ、間近に控えている就学への期待をもつ。
2月	チャレンジジャンプ参観	小学生が縄跳びに挑戦する姿に刺激を受け、自分たちもやってみたいと意欲をもつ。
2月	小学校探検	校内を見学したり、授業の様子を見たりして、小学校への期待をもつ。

交流の前に「園のねらい」を確認し、小学校ではそのねらいを考慮して活動する

【事例 園児の小学校（1年生）参観】2月

〈園のねらい〉

校内を見学したり、授業の様子を見たりして、小学校への期待をもつ。

〈小学校のねらい〉

園児の授業参観を受けることで、憧れの2年生になりたいという気持ちを高める。

〈当日の活動〉

- ・園児は、1年生の各教室に行き、授業を参観する。
- ・休み時間になったところで、教室の中を歩き回って見学する。
- ・園児が以前、応援に行ったチャレンジジャンプ（縄跳び記録会）の感想を書いたお手紙を1年生に渡す。
- ・受け取った1年生がお礼を言う。
- ・園児は廊下に整列し、あいさつをして園にもどる。
- ・1年生は手を振って見送る。



〈小学校における交流事前指導〉

「園児たちが小学校を楽しみにしてくれるよう、自分たちが頑張っているところを見せたい」という気持ちを高める。

〈交流日当日の姿〉

園児を迎え、1年生は大変はりきって授業に臨んだ。



園児たちは、本校のチャレンジジャンプ（縄跳び記録会）を参観に来ていて、小学校参観の折に、チャレンジジャンプの感想を書いたものを1年生に渡してくれた。

1年生の子供たちは、大変うれしそう。憧れの2年生になりたい！



幼小の連携のために

幼小が共に、活動のねらい、つまり育みたい資質・能力を理解しあい、考慮しあうことが重要である。そのために、指導者同士が次のような活動を行う必要がある。いずれの活動についても、時間が取れなくて難しい場合は、資料やまとめの交換でもよい。

ポイント

- 相互理解のため、園は「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について、小学校は「スタートカリキュラム」について、互いに説明する機会をもつ。
- 活動の前に指導者同士が打ち合わせを行う。交流の場合は、園と小学校がともに、その活動で育みたい資質・能力を明確にし、伝える。特に小学校は、授業の、「目標と評価」を具体的な子供の姿で伝える。
- 活動後に、園児と児童の反応や、感想等の情報共有を行い、評価（活動の価値付け）をする。

ふりかえり

保育者と小学校の教員が相互理解を深め、ねらいを明確にした協働が幼小接続につながる

子供同士の交流を行えば、幼小が「連携」していると言えるわけではない。幼小の架け橋プログラムは、「子供に関わる大人が立場の違いを越えて連携し、架け橋期にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、個の多様性に配慮したうえですべての子供の学びや生活の基盤を育む」ことを目指している。つまり、保育者や教員といった指導者が相互理解を深め、ねらいを明確にして、それぞれの、あるいは協働の教育活動を計画することが、「連携・接続」を図ることにつながる。